



**2009年3月期 第3四半期  
決算概要とトピックス**

**代表取締役社長  
高橋 晃**

**2009年 1月 29日**

# 決算概要

(億円)

	08/3期Q3累計	09/3期Q3累計	増減率
売上高	2,314	2,315	0%
粗利益(率)	1,275 (55.1%)	1,234 (53.3%)	-3%
販管費(率)	751 (32.4%)	779 (33.6%)	4%
営業利益(率)	524 (22.7%)	455 (19.7%)	-13%
経常利益(率)	529 (22.9%)	427 (18.5%)	-19%
純利益	348	287	-17%

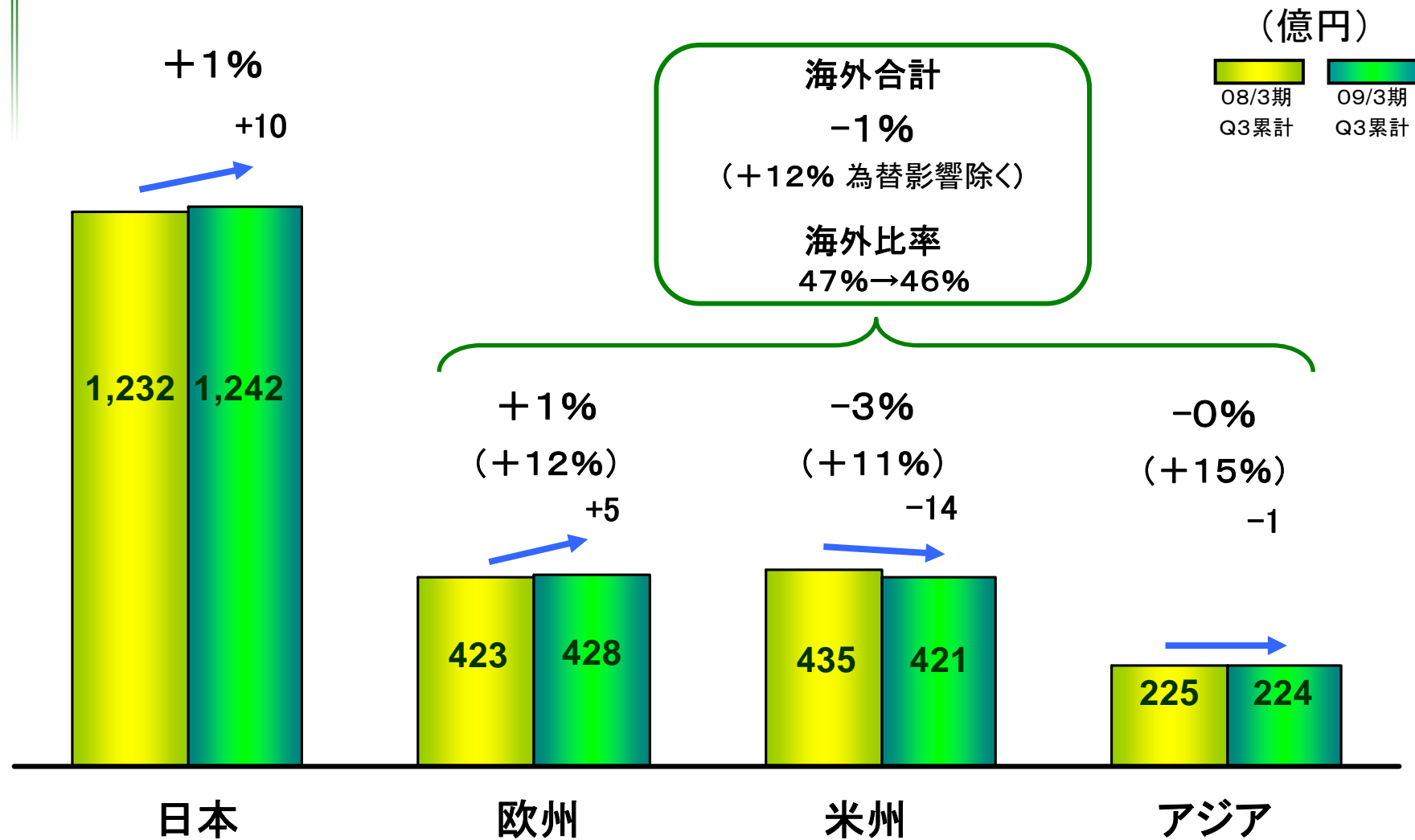
期中平均レート

US\$ 117円  
EUR 163円

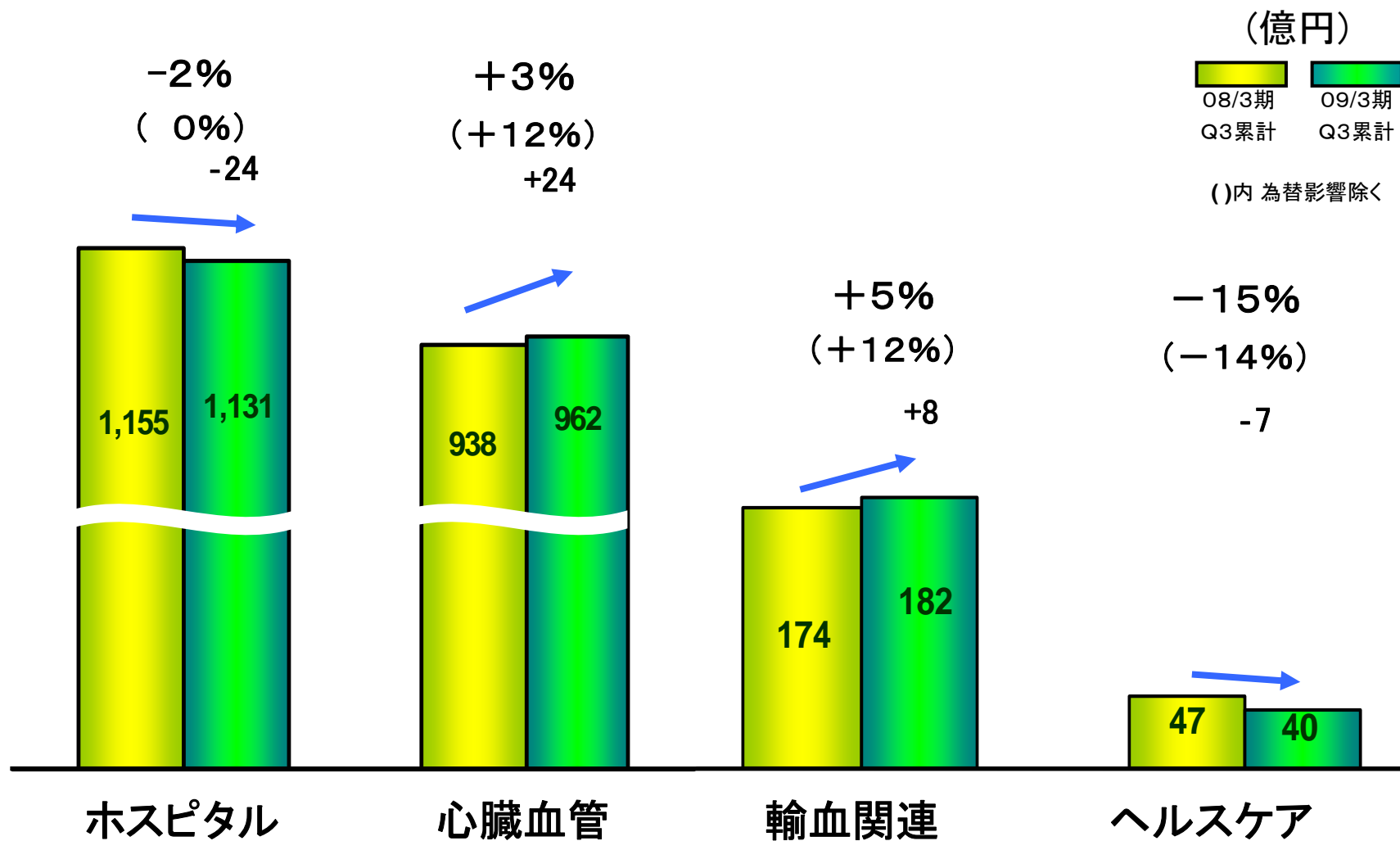
103円 12.3%円高  
151円 7.2%円高

# 売上高 (地域別)

## 現地通貨ベースで海外2桁成長

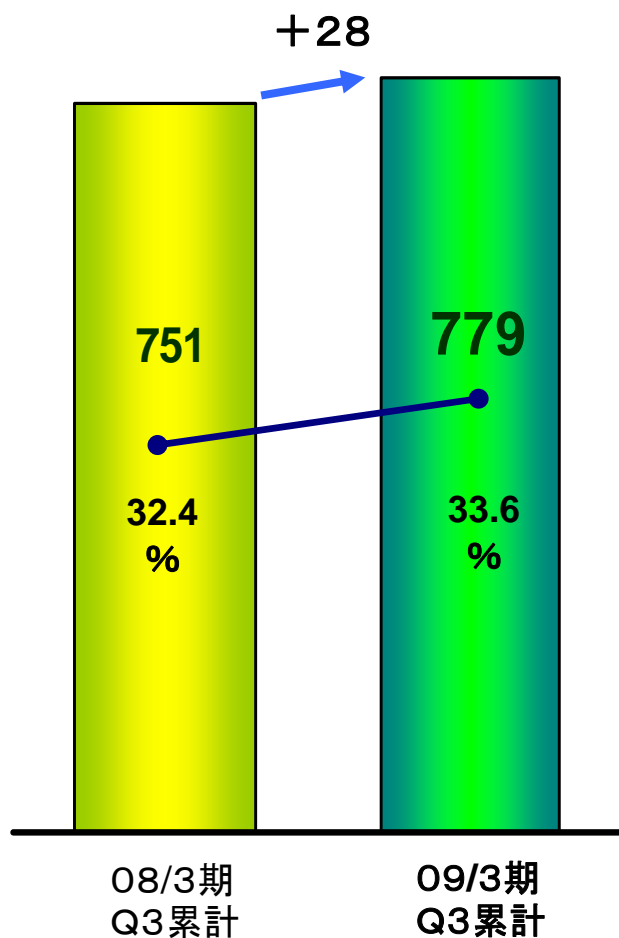


# 売上高（商品群別） 円高下、心臓血管と輸血は成長



# 販管費 販売・管理・開発の強化、のれん代により増加

(億円)



販管費比率  
1.2ポイント  
上昇

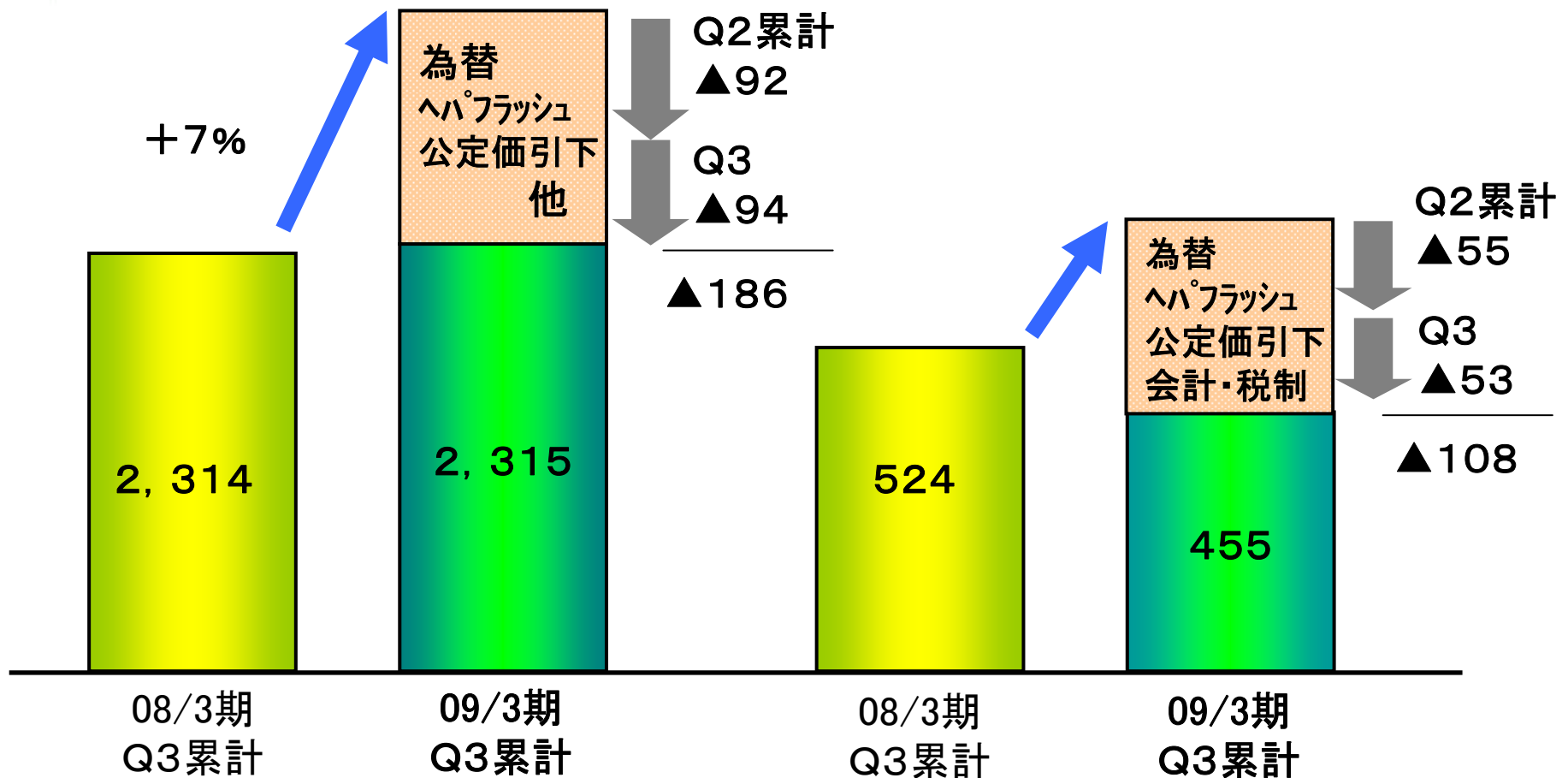
	08/3期 Q3累計	09/3期 Q3累計	増減	対前年 比
人件費	275	284	+9	3.4%
物流費	68	70	+2	3.0%
販促費	76	82	+6	8.1%
研究開発	118	122	+4	3.4%
のれん償却	6	15	+9	173.4%
その他	208	206	-2	-1.1%
計	751	779	+28	3.8%

# 第3四半期累計：売上高・営業利益の動き

## 【売上高】

## 【営業利益】

(億円)



# 第3四半期：売上高分析

(億円)

	<u>Q2累計</u>	<u>Q3</u>	<u>Q3累計</u>
・ 為替(円高)	▲ 57	▲ 76	▲ 133
・ 薬価公定価格下落	▲ 20	▲ 12	▲ 32
・ <u>へパフラッシュ</u>	▲ 15	▲ 6	▲ 21
・ 計	▲ 92	▲ 94	▲ 186
・ 上記以外の要因	+ 154	+ 33	+ 187
・ 差異計	+ 62	▲ 61	+ 1

## 第3四半期：営業利益分析

(億円)

	<u>Q2累計</u>	<u>Q3</u>	<u>Q3累計</u>
・ 為替(円高)	▲12	▲32	▲ 44
・ 薬価公定価格下落	▲20	▲12	▲ 32
・ ヘパフラッシュ	▲13	▲ 4	▲ 17
・ 会計制度変更	▲10	▲ 5	▲ 15
・ 計	▲55	▲53	▲108
・ 上記以外の要因	+35	+ 4	+ 39
・ 差異計	▲20	▲49	▲ 69



# 業績見通し

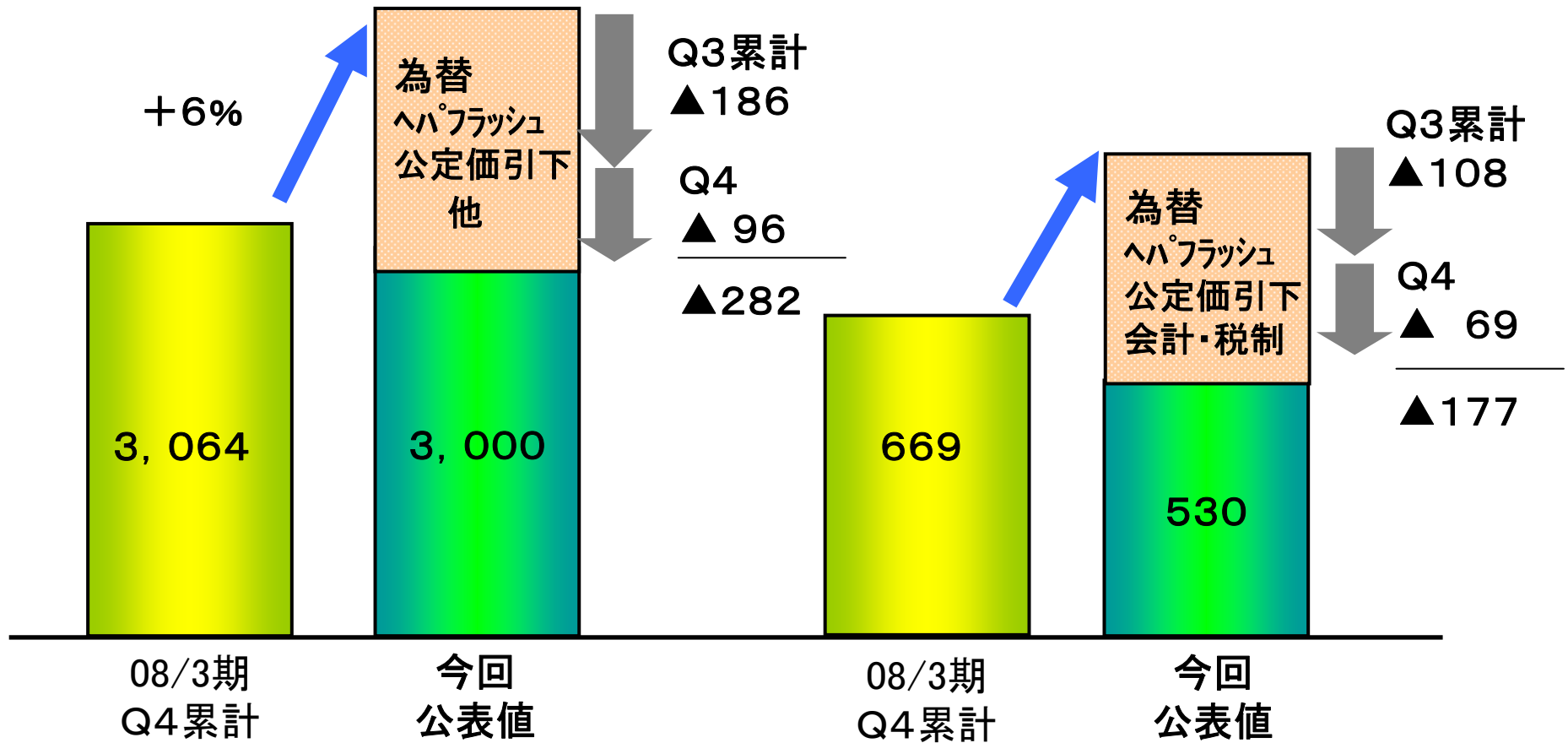
	09/3期 Q3累計実績	09/3期 年間見通し	(億円) 前回見通し
売上高	2,315	3,000	3,100
営業利益(率)	455 (19.7%)	530 (17.7%)	620 (20.0%)
経常利益(率)	427 (18.5%)	485 (16.2%)	610 (19.7%)
当期純利益	287	325	400
期中平均レート	US\$ 103 円 EUR 151 円	99 円 141 円	101 円 144 円
		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; color: red;">Q4想定レート</p> <p style="text-align: center; color: red;">US\$ 87 円</p> <p style="text-align: center; color: red;">EUR 113 円</p> </div>	<p style="text-align: center;">下期想定レート</p> <p style="text-align: center;">US\$ 95 円</p> <p style="text-align: center;">EUR 125 円</p>

# 年間売上高・営業利益分析

(億円)

## 【売上高】

## 【営業利益】



# 年間:売上高分析

(億円)

	<u>Q3累計</u>	<u>Q4</u>	<u>年間</u>
・ 為替(円高)	▲133	▲77	▲210
・ 薬価公定価格下落	▲ 32	▲15	▲ 47
・ <u>へパフラッシュ</u>	▲ 21	▲ 4	▲ 25
・ 計	▲186	▲96	▲282
・ 上記以外の要因	+187	+31	+218
・ 差異計	+ 1	▲65	▲ 64

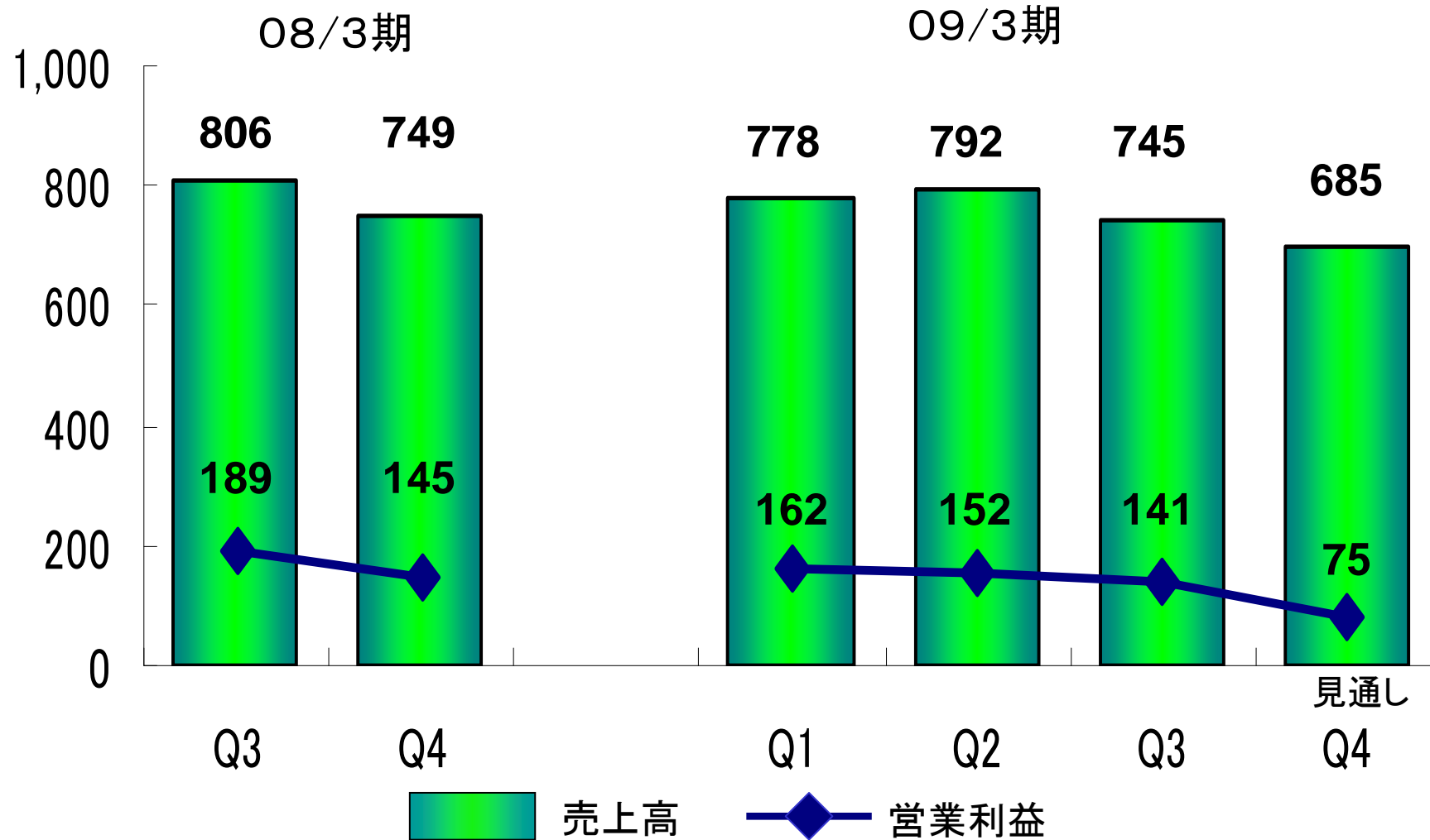
# 年間：営業利益分析

(億円)

	<u>Q3累計</u>	<u>Q4</u>	<u>年間</u>
・ 為替(円高)	▲ 44	▲28	▲ 72
・ 薬価公定価格下落	▲ 32	▲15	▲ 47
・ ヘパフラッシュ	▲ 17	▲ 3	▲ 20
・ 生産調整	—	▲18	▲ 18
・ <u>会計制度変更</u>	▲ 15	▲ 5	▲ 20
・ 計	▲108	▲69	▲177
・ 上記以外の要因	+ 39	▲ 1	+ 38
・ 差異計	▲ 69	▲70	▲139

# 四半期推移

(億円)



# トピックス

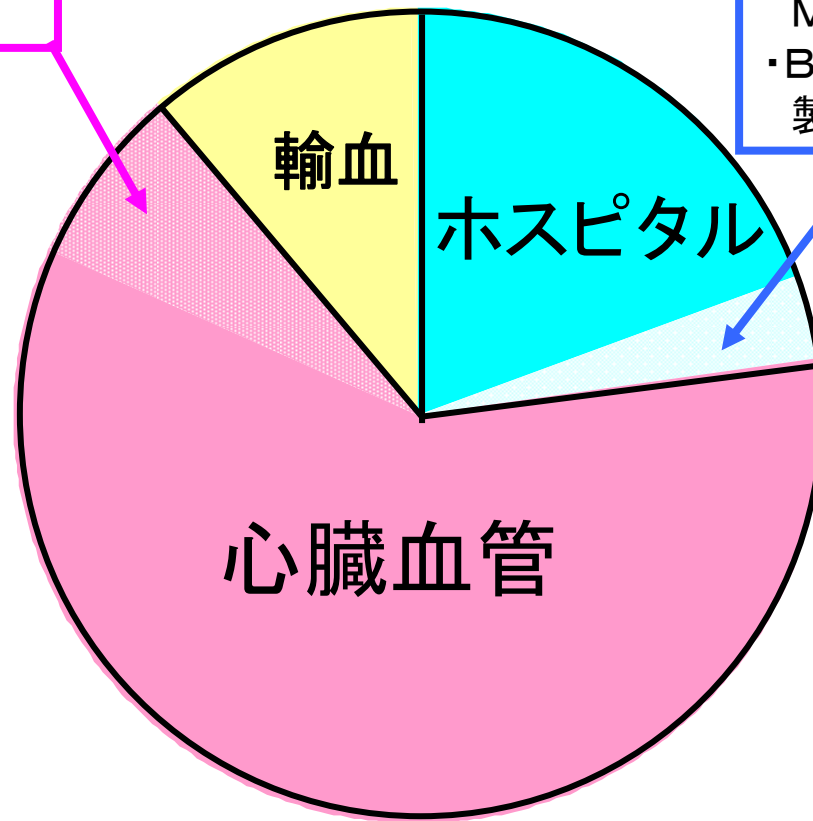
## ◆金融・経済危機の影響と 今後の対応について

# 金融・経済危機が医療市場に与えた影響

- ◆ 民間病院・代理店・保険会社などの経営が悪化
- ◆ 失業率UP⇒米国を中心に無保険者がさらに増加
- ◆ アジア・新興国での大型投資が一時的にストップ

# 海外では一部の売上に影響

・大型ME機器の  
購入先送り

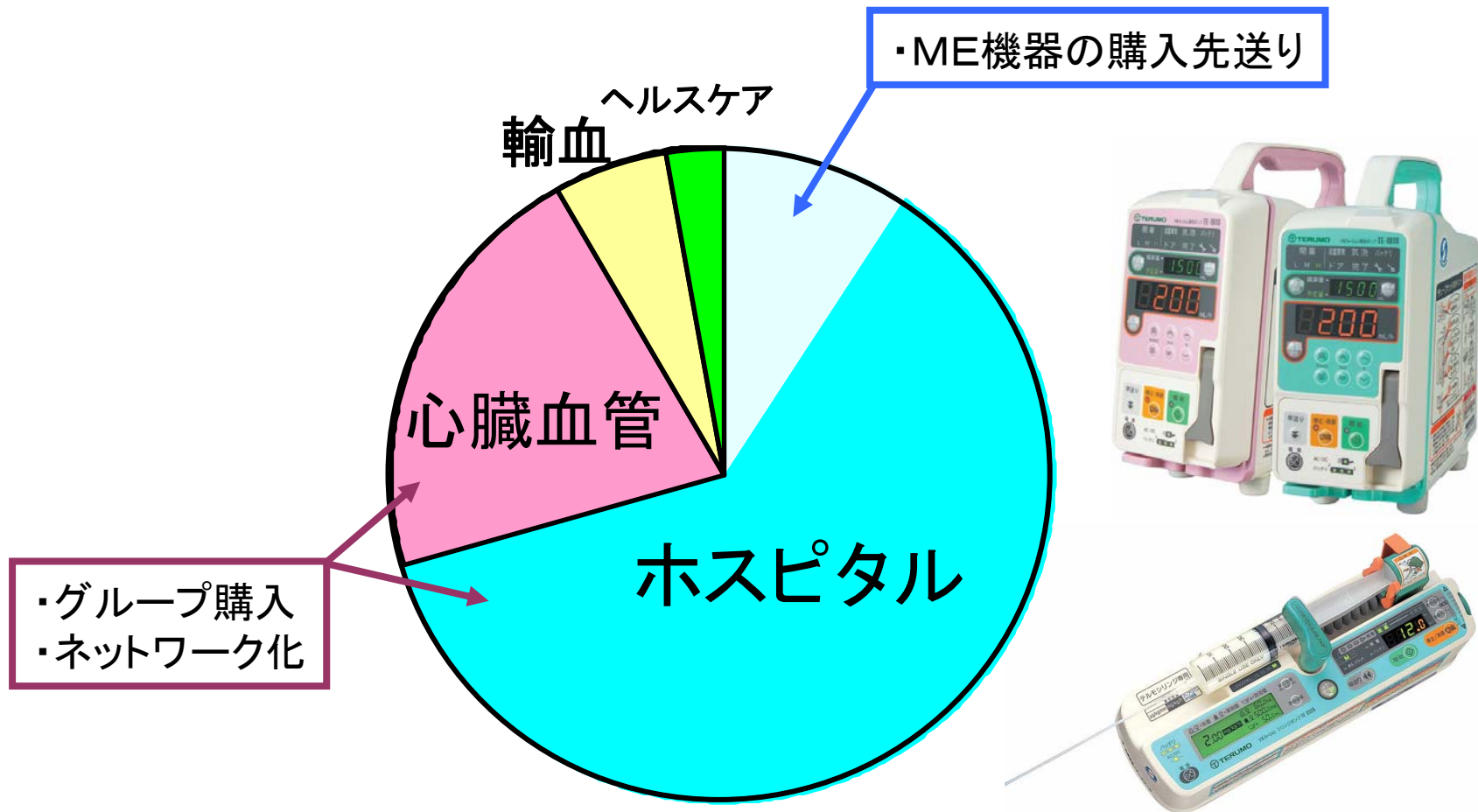


・輸液ポンプ・シリンジポンプなど  
ME機器の購入先送り  
・B2B企業の在庫圧縮  
製薬(欧州)、ホールセラー(米国)





# 国内の影響は限定的だが、 病院の統廃合・機能分化は進む



# 体質強化に向け社長直轄のプロジェクトを加速

## ◆粗利益改善

- ・投資の見直し
- ・海外生産・現地調達品の拡大
- ・継続的な販売価格値上げ
- ・品種統廃合
- ・ダイレクトマーケティング

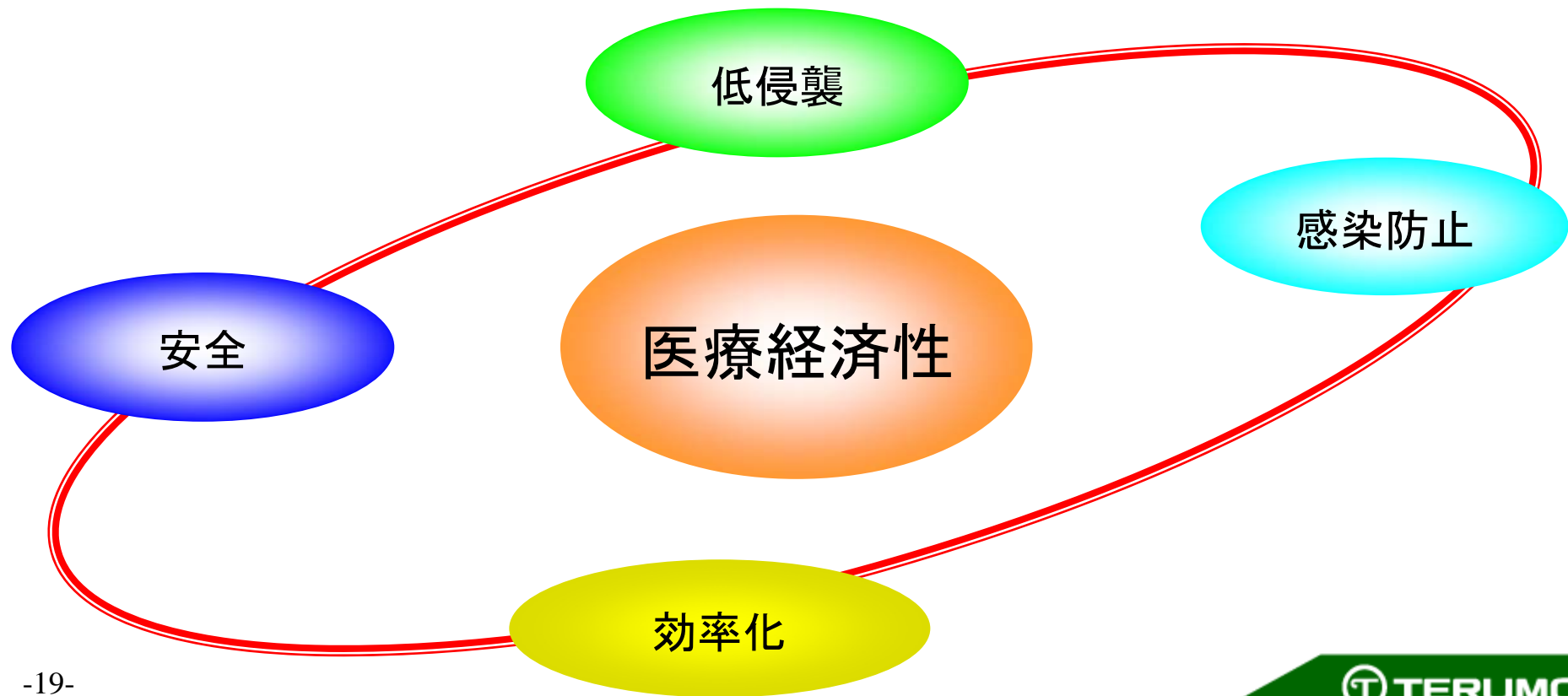
## ◆販管費効率化

- ・業務の徹底見直し・効率化
- ・開発投資の厳選
- ・販売生産性の向上(先行投資の人員活用)
- ・物流コスト削減

品質のさらなる向上、アジア生産移管などには積極投資

# 一方、医療の潜在需要は変わっていない

- ◆ 経済性向上のニーズ、さらに高まる
- ◆ 成長戦略の基本骨格は堅持



# 低侵襲治療の経済効果

医療機器/療法	入院日数	従来の療法	入院日数	1人当たりの削減効果 (削減率)	年間患者数	年間医療費削減効果
PTCAカテーテル治療	5	開胸バイパス術 (CABG)	30	226.6万円 (70%)	86千人	1,948億円
腹腔鏡下 胆嚢摘出術	6	開腹術	28	25.4万円 (73%)	100千人	254億円
内視鏡下胃粘膜部 悪性腫瘍切除	3	開腹術	29	36.1万円 (89%)	7千人	25億円

出展:「転換期を迎えた日本の医療システム」1999年(ACCJ, Bain & Company)など

# 感染防止の経済効果

◆日本の大病院(1000床)では、感染による合併症で約11億円の過剰な医療費



うち、30%は対策の充実により感染防止が可能

	1例あたりの 過剰医療費	1年間の症例数	過剰医療費 (1年間)
手術部位感染症	121万円	400例	4億8,400万円
内科系入院 MRSA感染症発症有	231万円	100例	2億3,100万円
MRSA感染症発症無	100万円	400例	4億円

木村哲 2004年「院内感染防御とコストベネフィット」臨床と研究より

# ニーズに合致した戦略を実行（第3四半期の動き）

## ◆低侵襲治療商品の品揃えを充実

- PTCAバルーン「Hiryu」、欧州・アジアに販売地域を拡大
- 脳動脈瘤治療用コイルのデリバリーシステム、品揃えを拡充

## ◆安全性・効率化に寄与する商品を拡大

- 日本：成分採血システム「テルシス」
- 欧米：無菌チューブ接合装置などのME機器
- 欧米：セーフティ機能付静脈留置針



TSCD-Ⅱ（無菌接合装置）



シュアシールドサーフローⅡ  
（針刺し事故防止機構付留置針）

# まとめ

- ◆この危機をチャンスと捉え体質強化
- ◆来期については、市場動向を見極め検討



- 医療経済性へのニーズは高まる
- 中期経営計画の基本戦略を推進

# 《おことわり》

本資料に記載されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績が、記載されている予想・見通しとは異なる場合があります。ご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レート、競争状況などがあります。